藤原宮跡・京跡の調査

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1983年度，飛鳥藤原宮跡発掘調査部では，藤原宮・京域において，西面中門・東方官衙・日高山など23件におよぶ発掘調査を実施した。以下に主要な調査の概要を報告する。

1. 藤原宮跡

藤原宮西面中門（第37次）の調査　本調査は藤原宮の四至および宮城門の確認調査のひとつとして実施したものである。西面の宮城門のうち，中門を中心とした地域を対象に選び，中門の位置・規模および西面大垣と外濠の確認を目的として調査地域を設定した。検出した主な遺構には藤原宮の西面大垣ＳＡ258，同外濠ＳＤ260，藤原宮廃絶以後の井戸・土壙などがある。

西面大垣ＳＡ258は宮の西面を画する掘立柱の大垣で，発掘区東南端で４間分（総長10.64ｍ）を検出した。柱間は2.66ｍ（９尺）等間で，これまでの調査で確認されている大垣の柱間と等しい。この大垣の北側が西面中門の位置にあたるが，門の遺構は後世の著しい削平のためその痕跡をとどめていなかった。しかし，宮の東西中軸線が想定される位置は，大垣がとぎれる北端の柱穴から北15.2ｍのところにあたる。この距離を北に折り返すと南北30.4ｍとなり，これまでに明らかにされてきた宮城門と同じ桁行５間（総長25.2ｍ），梁間２間（総長10.1ｍ）の平面規模を持つ門がこの間に存在したと考えることができる。また，原位置からは離れていたが，門

藤原宮西面中門調査遺構図

にかつて使用されていた礎石と唐居敷を各1個発見した。礎石は長さ133cm，幅138cm，厚さ87cmの花崗岩製で，平坦に加工した上面の一端に唐居敷との組合せ仕口と軸摺り穴の半分をほりくぼめてある。唐居敷は長さ145cm，幅128cm，厚さ40cmの花崗岩を加工したもので，上面を平坦にし，片面に寄せて蹴放し（地覆兼用）を造り出してある。蹴放しの一端は突出しており，その上面に方立の枘穴がうがたれ，その脇下面に軸摺り穴の半分をほりくぼめてある。今回出土した礎石と唐居敷は，その軸摺り穴の位置関係から見て直接には組み合うものではないが，同様の仕口をもつ他の唐居敷や礎石と組み合わされて，一対のものとして使用されていたことは明らかである。このように原位置を動いているとはいえ，藤原宮宮城門の礎石と唐居敷が発見されたのは今回がはじめてであり，宮城門の建築構造の復原に貴重な資料を加えることができた。

西面中門の唐居敷と礎石

西面外濠ＳＤ260は，西面大垣ＳＡ258の西を北流する素掘りの南北大溝で，25ｍ分を検出した。この大溝は，宮の廃絶後も10世紀末頃まで用水路として機能している。東岸が著しく侵蝕されて当初の溝幅よりかなり広くなっており，現状で幅12ｍ，深さ1.5ｍである。

井戸は3基（ＳＥ3440・3441・3442）を検出した。いずれも藤原宮の廃絶以後のもので，外濠に近接した位置に掘られている。ＳＥ3440は発掘区北端，外濠の東岸にあり，長さ82cmの厚板3段を井籠に組みあげた構造で，底には礫が敷きつめてある。井戸の中からは9世紀末の土器や銭貨2点（隆平永宝・貞観永宝）が出土した。ＳＥ3441はＳＥ3440の西あり，直径約35cmの曲物を3段に積み重ね，その上に底部を抜いた土釜を据えている。井戸の中からは10世紀後半の黒色土器の完形品が1点出土した。ＳＥ3442は外濠の南端西肩部にあり，曲物を2段に積みあげたものである。

出土遺物は外濠から発見されたものが多く，土器・瓦類のほかに木・金属・土製品，銭貨，木簡等がある。土器は8世紀前半のものが大部分で，9～10世紀のものもある。墨書土器は49点出土したが奈良時代の土器の墨書に「宮」「三合」「蔵」などがある。瓦には藤原宮所用瓦が多いが，奈良時代のものも少量ある。木製品には人形，多足机，土製品にはミニチュアの竈，土馬がある。木簡は2点出土したが，1点は「見奴久万呂」と読める。

今回の調査では西面中門の遺構は検出できなかったが，大垣の位置から門の存在が明らかとなり，さらに門に使用されていた礎石と唐居敷がみつかり，宮城門の姿を知るうえで貴重な資料を得ることができた。

東方官衙地域遺構配置図

藤原宮東方官衙地域（第38次）の調査　藤原宮東方官衙地域では，これまで第30・35次調査によって官衙建物群を確認している。本調査もこれらの調査と一連のもので，官衙の規模や性格，建物群の基本的な配置を明らかにする目的で実施した。調査地は第35次調査区に西接している。検出した主な遺構には掘立柱建物，掘立柱塀，溝，土壙，道路などがある。

掘立柱建物C（SB3300）は，第35次調査でその東半部がみつかっている。今回の調査では，西半部4間分を検出し，この建物が桁行9間（総長26.37m，各柱間2.93m等間），梁間3間（総長8.18m，中央間3.50m，両脇間2.34m）の規模で，柱筋のすべてに柱の建つ総柱の建物となることが確定した。この結果，東方官衙地域では，東から桁行12間，梁間2間の掘立柱建物A，桁行11間，梁間2間で床束のある掘立柱建物B，掘立柱建物Cといずれも東西に長大な建物が，南側柱筋をほぼ揃えて建ち並ぶという特徴のある建物配置をとり，しかもそれぞれの建物が床の有無を含めて異なった平面をもっていることが判明した。掘立柱建物Dは，桁行2間以上，梁間3間の身舎の東・南に庇がつく南北棟の建物である。同棟は建物Cの西にあり，南妻柱列を建物Cの南側柱列に揃えて建ち，東方官衙の一連の建物群の西端に位置することがわかった。掘立柱塀Eは建物Dの西約16mにある南北塀で，9間分を確認した。柱間は約2.70m等間で，東方官衙地域の西を限る施設である。塀Eの西約1mと16mの位置には，素掘りの溝が南北に走り，想定東一坊大路先行条坊の両側溝と考えられる。これらの溝は，藤原宮期にも流路として機能していたと思われ，両溝間の空間は宮内道路Fとして使用されていた可能性がある。

そのほか，建物Cの南に接して桁行5間，梁間2間（各柱間2.25m等間）の東西棟建物，塀Eの西約5.6mの位置に南北塀1条を検出した。これらは藤原宮期より一時期古いものである。

このように本調査で東方官衙の東西規模と建物の配置状況の一部が明らかとなったが，まだその全貌をつかむに至っておらず，今後の調査に期待するところが大きい。

2. 藤原京跡

日高山（第40次）の調査　橿原市営住宅建設にともなう事前調査である。調査地は藤原宮の南約300ｍの日高山丘陵上で，藤原京条坊では右京七条一坊東南坪にあたる。丘陵の北裾には藤原宮所用瓦を焼いた日高山瓦窯が確認されている。丘陵上には古墳の痕跡すらみられないが，周辺地域の調査で，整地土等から4世紀末～6世紀前半の埴輪の出土例も多く，当該時期の古墳の存在が推定されていた。調査地ではすでに市営住宅・グランド造成の際に削平・盛土がなされており，盛土は厚いところでは4ｍにもおよんでいる。

調査面積は約870ｍ^{2}で調査区の北側では，盛土下で旧地形を確認するにとどまったが，南側では基底部一辺約18ｍの方墳（日高山1号墳）1基を検出した。主体部，墳丘の大半はグランド造成以前にすでに削平されており，地山を削り出した基底部を最高約1ｍ残すだけであった。古墳は丘陵の東斜面に築造されている。墳丘を周辺から画するため，北・西・南側には巾4～5ｍ・深さ1ｍの溝状の掘り込みがされている。この底面に墳丘裾から約1ｍ離れて円筒埴輪がめぐる。12本分が原位置を保ち，各埴輪とも約30㎝の掘方にすえられていた。埴輪の間隔は3ｍ弱とまばらである。原位置で確認した円筒埴輪のうち南側の1本は，ほぼ完全な形で立っていた。古墳以外の遺構には，古墳の溝状部の埋土を切り込む土壙がある。6世紀後半～7世紀前半に掘り込まれたものである。

埴輪列で検出した円筒埴輪には，すべての個体に黒斑があり，第1次調整のタテハケの後に第2次調整のB種ヨコハケがほどこされている。この特徴からみて，埴輪の年代は5世紀前半と考えられる。埴輪列周辺からは，原位置を保っていないが，蓋形埴輪（笠部・四方飾）・鶏形埴輪等の形象埴輪も出土している。胎土・焼成等からみて，これらも日高山1号墳にともなう

日高山1号墳出土円筒埴輪　　日高山1号墳実測図（○印は円筒埴輪）

ものと考えられる。また，溝状部埋土中から6世紀前半の埴輪片も出土している。埴輪以外の主な遺物には，小釘を打ちつけた細い鉄板がある。倒壊した円筒埴輪と混在して出土したもので，形状からみても木心鉄張輪鐙の破片と考えられる。ほかには，1号墳削平後の整地土中から金銅製耳環1個体が出土している。

以上，今回の調査で，5世紀前半代の古墳が検出でき，さらに，6世紀代まで埋葬が引き続きおこなわれていた兆候が認められたことは大きな成果といえよう。日高山は，藤原京造営に際して朱雀大路が貫通するため大規模な削平を受けており，丘陵上にかつて存在していた古墳もその造営工事によって破壊されたものと考えられてきた。日高山1号墳を削平した後の整地土から出土した遺物等も，上記の破壊が藤原京造営にあたってなされた可能性が強いことを示唆するものであり，従来の想定の蓋然性をうらずけるものといえよう。

日高山1号墳の墳丘は，大半が地山を削り出して造られたもので，これを基底部とし，原地形の低い東側に主に封土を積んで築成されたものと考えられる。また，上記のように，小規模古墳にもかかわらず，形象埴輪を含む埴輪列が囲繞していたことは，この地域の古墳時代の社会を考えるうえで興味深い資料となろう。

藤原宮南面外周帯の調査　児童公園建設にともなう事前調査である。対象地には宮南面外周帯・六条大路および宮域内先行条坊道路の西二坊坊間小路の存在が予想された。

藤原宮期の遺構には，調査区の東部で検出した南北溝ＳＤ01および，西部で検出した井戸ＳＥ02がある。ＳＤ01は幅5～6ｍ・深さ1.4ｍの規模で，溝埋土から弥生土器片，7世紀末の土師器・須恵器片，藤原宮所用の丸・平瓦片，削り掛けが出土している。ＳＥ02は井籠組の井戸である。0.95ｍ×0.75ｍの規模で，深さは2.6ｍあり，底には拳大の円礫が敷きつめられていた。調査区内に想定されていた六条大路北側溝および，先行条坊道路西二坊坊間小路西側溝は想定位置には存在せず，後世の削平によって消失したと考えられる。ＳＤ01は西一坊大路と西二坊大路のほぼ中央に位置する。出土遺物からみて，藤原宮の時期に機能していたことが確認できる。藤原宮の宮外周帯に坊間小路が通っていたとは考えがたいので，ＳＤ01の性格については，先行条坊道路の東側溝を掘り拡

藤原宮西南地域遺構配置図

げたもので，六条大路周辺の排水を集め，宮南面外周帯を横断して宮の南外濠に流し落す基幹排水路として機能していたと考えるのが妥当であろう。

国道165号線バイパス（第39次）の調査　本調査は国道165号線橿原バイパス建設工事にともなう事前調査である。調査地は藤原京条坊地割では，右京二条三坊東南坪・三条三坊東北坪に含まれ，宮に西接する西二坊大路から西へ約40mの位置にあたっている。調査は2箇所にわけて行ない，北区には南北長99m，幅7m，南区には南北長70m，幅4mのトレンチを設定した。検出した主な遺構は古墳時代（5世紀）の竪穴住居2，藤原宮期の建物9，塀4，道路2，中世の建物5，井戸1である。

道路遺構は，宮に北接する二条大路ＳＦ3200の西延長部と三条々間小路ＳＦ07である。二条大路は側溝心々間の距離が16.2mで，路面幅15mを測る。三条々間小路については北側溝のみを検出した。北調査区の北端で検出した藤原宮期の建物は，二条三坊東南坪内にあり，柱穴の切り合い関係から2時期に分かれる。古い時期には，梁間4間（10尺等間）以上の東西棟ＳＢ01と梁間2間（9尺等間）の東西棟ＳＢ02の2棟が南北に並んで建てられている。両者は柱筋を揃えており，隣棟間隔は10尺である。新しい時期の建物には，身舎の柱間が9尺等間で，東西両面に11尺の出の廂をもつ桁行3間以上の南北棟ＳＢ03がある。ＳＢ03と併存すると考えられる2条の塀ＳＡ04・05は，ＳＢ03の南妻からそれぞれ30尺，75尺南に離れて存在する。これら2時期の建物は一坪の東西中軸線付近に立てられている。また，トレンチの西端から西へ約15mの位置が坪の南北中軸線にあたるので，これらの建物は坪内の中心的な建物群の一部にあたるものと考えられる。

藤原京内の宅地の実態を解明する作業は，開発の進展ともからんで急務である。しかし，坪内宅地を大規模に発掘調査した例はまだ少なく，宅地内の様子についてはまだ不明なところが多い。今回の調査で検出した2時期にわたる大規模な建物は，今後，藤原京内の宅地のあり方を考えるうえで重要な資料となると考えられる。　（村上訓一・立木　修）

第39次調査北半部遺構図

1983年度　飛鳥藤原宮跡発掘調査部調査一覧

調査地区	遺跡・調査次数	調査期間	面積	備考
6AJK—F	藤原宮　37	58. 8. 1～58. 12. 3	1,008m²	西面中門
6AJF—B	藤原宮　38	58. 12. 1～59. 3. 28	1,350m²	東方官衙
6AJJ—A～C	藤原京　39	59. 1,23～59. 4. 10	1,405m²	右京二条三坊東南坪，三条三坊東北坪
6AWK—H	藤原京　40	59. 3. 1～59. 4. 19	870m²	右京七条一坊東南坪（日高山）
6AWR—F	藤原京　37—1	58. 4. 2～58. 4. 14	45m²	右京八条三坊
6AJG—U・T	藤原宮　37—2	58. 4. 18～58. 5. 7	350m²	宮西南地域
6AJH—S	藤原京　37—3	58. 4, 27～58. 4. 28	16.5m²	右京七条二坊
6AMF—A	藤原京　37—4	58. 6. 6	13m²	左京八条四坊
6AJF—T	藤原宮　37—5	58. 8. 1～58. 8. 2	21m²	宮西方官衙地域
6AJM—C	藤原宮　37—6	58. 8. 5～58. 9. 13	630m²	南面外周帯
6AJC—N	藤原京　37—7	58. 9. 13～58. 9. 17	42m²	左京六条三坊西北坪
6AWG—L	藤原京　37—8	58. 9. 19～58. 9. 21	30m²	左京八条三坊
6AJH—R	藤原京　37—9	58. 9. 19～58. 10. 4	43m²	右京七条二坊東北坪
6AWR—S	藤原京　37—10	58. 10. 17～58. 10. 18	14m²	右京八条四坊西北坪
6AJB—R	藤原宮　37—11	58. 10. 24	10m²	宮東方官衙地域
6AWR—S	藤原京　37—12	58. 10. 25～58. 10. 28	24m²	右京八条四坊東北坪
6AML—D	藤原京　37—13	58. 11. 4	15m²	左京九条二坊東南坪
6AMB—U	藤原京　37—14	58. 11. 24～58. 11. 26	13m²	左京九条三坊
6AMH—N	藤原京　37—15	58. 12. 7	8m²	左京十二条三坊西北坪
6AMH—N	藤原京　37—16	58. 12. 7～58. 12. 8	9m²	左京十二条三坊西北坪
6AJF—P	藤原宮　37—17	58. 12. 12～58. 12. 13	12m²	内裏西方
6AJN—K	藤原京　37—18	58. 12. 19～58. 12. 21	30m²	左京二条三坊西北坪
6AMN—P	藤原京　37—19	58. 5. 26～58. 5. 27	16m²	右京十条一坊西北坪
6BMY—B	本薬師寺　2	58. 5. 19～58. 6. 3	150m²	寺域東半部
5BYD—L・M	山田寺　5	58. 5. 10～58. 10. 31	527m²	東回廊
6AMD—U	飛鳥浄御原宮推定地	58. 7. 18～59. 2. 20	1,405m²	石神遺跡第3次
6AMD—O・P・R・S	飛鳥浄御原宮推定地	58. 5. 9～58. 5. 10	190m²	石神周辺A
6AMD—W	飛鳥浄御原宮推定地	58. 8. 29～58. 9. 2	10m²	石神周辺B
5BAS—Q	飛鳥寺周辺　C	58. 4. 7～58. 4. 12	20m²	講堂北方
5BAS—A・B	飛鳥寺周辺　D	58. 5. 12～58. 5. 13	14m²	寺域東部
5BAS—B	飛鳥寺周辺　E	58. 7. 6～58. 7. 7	5.5m²	寺域東部
5BAS—B	飛鳥寺周辺　F	58. 10. 6～58. 10. 7	5m²	北回廊
5BAS—J	飛鳥寺周辺　G	58. 11. 10～58. 11. 11	7.5m²	寺域西方
5BAS—E	飛鳥寺周辺　H	59. 1. 10～59. 1. 11	45m²	寺域東北
5BAS—E	飛鳥寺周辺　I	58. 12. 21～58. 12. 22	12m²	〃
5BAS—D	飛鳥寺周辺　J	59. 1. 17～59. 3. 27	52m²	寺域南
5BAS—D	飛鳥寺周辺　K	59. 1. 17～59. 3. 30	135m²	〃
6AKH—H	川原寺周辺	58. 11. 18	4m²	寺域西方
6AKJ—C	定林寺	59. 2. 15	15m²	寺域東方